

長嶺 信夫先生「ミャンマー (ビルマ) は泣いている」 (令和4年4・5月号掲載) を表彰!!



ミャンマーで軍事クーデターが起きてから1年が過ぎた。インパール作戦で日本軍が敗退した時、多くの傷病兵を收容したといわれるパゴダも夕闇迫る中泣いていた。「ビルマの豎琴」に魅せられ、訪れた時撮影した写真である。

チベット、新疆ウイグル自治区、香港の人権弾圧や虐殺とともにミャンマー国軍による住民虐殺を決して容認してはならない。

おりしもロシアがウクライナに軍事侵攻するという暴挙にでた。弱小国を自国の意のままにしようとする恐ろしい事態である。武力で物事を解決することはできないことを歴史が証明している。対話が成立しない相手に苛立ちを隠せない毎日である。

那覇市医師会 長嶺 信夫

Comment

令和4年2月1日、ミャンマーの軍事クーデターから丸2年となった。今でも非常事態宣言が続いている。夕闇の寺院からミャンマーの現況が想像させられ、何かしら物悲し気である。言外を匂わすグランプリに相応しい一枚である。

一時は「アジア最後のフロンティア」と呼ばれ経済発展が期待されたが、外資系企業が相次ぎ撤退し、混迷は深まるばかりである。しかし、ミャンマーの涙が笑顔に変わる日は必ずやってくるはずである。そして、闇が深いほど、夜明けは一層、輝きを放つ。

広報担当理事 久貝 忠男